



テーマ

鷗友学園交流の本

第91号

先生のおすすめ

橋本先生・大倉先生

本格的に冬将軍がやってきました。皆さんの膝にも色とりどりのブランケットがかかっていますね。今回は、鷗友学園と交流した際の読書会で紹介された作家さんの本と、橋本先生・大倉先生のインタビューを掲載しています。皆さんも、冬休みにぜひ本を読んでみてください。

題字 書家 二見紘子 先生

編集 菊 H.T.

水仙 K.M.

カット・印刷 桃 H.S.

椿 A.I.

百合 K.N.

鈴蘭 M.S.

よるのばけもの

住野よる 双葉社 913.6/Su64

夜の時間だけ化け物へと姿を変える主人公が夜の学校で出会ったのは、クラスのいじめ対象である矢野だった。そのような場面から始まるこの物語は、思春期ならではの主人公の葛藤、心情の変化が非常に細やかに描かれています。恵泉にいと、「いじめ」について考えることはあまり無いかもしれませんが、主人公の悩みには共感できるところが沢山あって、つい主人公のことを応援したくなるし、読み終えた後には自分も背中を押された気がする、そんな一冊です。

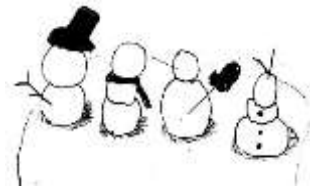
堇 A.M.

クローバーナイト

辻村深月 光文社 913.6/Ts449

この本は、鶴峯裕が様々な出来事を通して、夫、父として成長し、鶴峯家が更に団結するという物語です。家族の物語なので、とても身近に感じることも多いのですが、ママ友事情も知ることが出来て新鮮で面白かったです。将来、母との関係はどうなのかなど、自分を結び付けて読むと楽しいです。会話するシーンが多いので、案外さくっと、楽しく読むことができると思います。とても家族のあり方について考えさせられる本なので、読み終えるころには心が温かくなる本です。

梅 I.K.



夜のピクニック

恩田陸 新潮社 913.6/0

みんなで夜歩く。たったそれだけのことなのにね。どうして、それだけのことが、こんなに特別なんだろうね。

甲田貴子と西脇融は誰にも言えない複雑な関係を持っていた。そんな中、貴子は高校最後の行事、歩行祭で密かな賭けをする。

読んでいくごとに主人公達と周りの友人達に様々な事情・心情を知ることになるこの話。

「歩く」という動作によって主人公達の成長が表されています。あなたもきっと登場人物が後悔した青春がしたくなること間違いなし。

水仙 M.T.

ハリー・ポッターと賢者の石

J・K・ローリング 静山社 933/R78/I

本に興味がない人でも一度は聞いたことがあるロングセラーです。王道のファンタジーなのに一つ一つの描写と登場人物の生き生きとした表現が読む人を引き込み、全く読書をしないうという人でもサラサラと読めてしまいます。プライベート通り4番地に住むふつうの男の子から偉大な魔法使いになるまでの過程は長いように見えて短く、その間にはさまる濃厚なストーリーは自分が魔法使いだと思わせるほどに読みやすく、面白いです。映画しか見たことがない人も本で楽しんでみてください。

桃 N.K.



また同じ夢を見ていた

住野よる 双葉社 913.6/Su63

小学生の女の子奈ノ花が、ある日助けた猫に導かれて“アバズレ”さん(きれいな大人のお姉さん)、“南さん”(女子高校生)、“おばあちゃん”と出会い、幸せとは何かを考えながら成長していく物語です。「人生は、〇〇みたいなものなのよ」というのが奈ノ花のログセで、その発想がとてもユニークで可愛らしいです。そして、この物語の本当の意図が分かったとき、思わず鳥肌が立って感動しました!何度も読み返したくなる作品です。

5B H.M.

獣の奏者

上橋菜穂子 講談社 913.6/U/1

この本の主人公は鬮蛇村に住むエリンという少女です。鬮蛇村で毎日平和に暮らしていましたが、鬮蛇を死なせてしまった母親との別れで一転してしまいます。

題名の通り物語は獣とエリンが真摯に向き合い、心が通じ合い時には人間と獣の差を感じたりと、とても考えさせられる本です。現実では体験することができない獣と人間の物語を、ファンタジーの世界で味わえる一冊となっています。

椿 A.I.

どちらかが彼女を殺した

東野圭吾 講談社 913.6/H

この本は、刑事・加賀恭一郎が殺人事件の謎を解き明かしていく、シリーズ第三弾。タイトルの通り殺人の容疑者は二名。しかし、犯人は明言されていません。答えがないというより、各所にヒントが散りばめられており、読者参加型の小説になっています。犯人はどちらなのか、動機は何なのか。さらに推理難度の高い本をご所望なら『私が彼女を殺した』と合わせて読むことをオススメします。加賀刑事と一緒に謎解きしてみませんか?

5E S.O.

逆説の法則

西成活裕 新潮社 141.5/N

橋本先生
おすすめ本

この本に出会ったのはいつですか？

ー今年九月です。近所の図書館で出会いました。一般書なので高校生向きかもしれませんが、「思考の幅を広げる」という点で年代問わず新たな気づきを与えてくれる本です。

この本から学んだこと、得たものは何ですか？

ー「急がば回れ」「損して得取れ」とよく言われますが、実行に移すのは難しい。でもそうすることで得られることがあるということが証明されています。私たちはよく「～をしても無駄」といいますが、「無駄」というのは「目的」と「時間」と「立場」を設定してこそその概念だという著者の言葉にははっとさせられました。

インタビュー/菊 H. T.

生きる意味 来日講演集

ポール・トゥルニエ 194T 麦出版社

あらすじを教えてください。

ー簡単に言うとスイス人の内科医ポール・トゥルニエが医者としてどのように患者と接してきたかを書いた本です。

トゥルニエ医師はどのような人ですか？

ー患者と話して、もっと話す必要のある患者は家呼んで心が整うまで話を聞くような人だったそうです。また毎朝黙想して神が語って下さったことに沿って行動する真面目なクリスチャンでもあったそうです。

オススメポイントは？

ー患者を一人の人間として尊敬して大切にしている生き方に魅力を感じて新たに自分の生き方を見直せる本です。

インタビュー/5B M. A.

きよしこ

重松清 新潮社 913.6/Sh28

橋本先生
関連本

私は「人間一人一人がどう進むのか」ということと関連づけて、重松清作の『きよしこ』を紹介します。この本は、言葉がどもってしまい、うまく話すことができない少年「きよし」が人々と出会い、接していくことで、自分がどうやって進んでいき、生きていくのかを考えていく話です。今、日々がつかつたり苦しかったりする人は息抜き程度に読んでみてください。きっと生きることの大切さや素晴らしさを知り、毎日が少しでも変わるかもしれません。

桐 S. M.



友達の数は何人？

ダンバー数とつながりの進化心理学

ロビン・ダンバー 合同出版 14.04/D

この本は、ネットコミュニティも大注目のダンバー教授の超面白進化心理学をまとめた本です。上手くいく友達の数についてや、モノや人とのつながりを〈脳×進化〉の目線で解いています。私がこの本を紹介する理由は友達のこと悩んでいる時に読み、生きる意味の一つである希望を持てたからです。友達と無理に仲良くすることや、クラスの人全員と仲良くする必要はないのだな。と楽になりました。皆さんも〈脳×進化〉の目線で物事をとらえてみてはいかがでしょうか？

桜 K. I.

挑む！科学を拓く28人

日経サイエンス編集部 日本経済新聞出版社 402.1/I

橋本先生
関連本

「AI」「ビットコイン」など最近よく耳にするテクノロジー。それらはこの本に登場する科学者によって開発、研究されているのだ、ということを知ることができる一冊です。この本で語られるのは、技術的なことだけではなく、研究の中で経験した、ひらめき、苦しい状況を乗り越える知識、達成した時の喜びなど科学者ならではの経験がつまっています。先生が紹介していらした西成活裕さんの文章も載っています。是非28人の科学者の頭の中をのぞいてみてください。

5A N. U.

モリー先生との火曜日

ミッチ・アルボム 日本放送出版教会 93A6/A41

死ぬことと不幸なことは違う。そのように語ったモリー先生は、ミッチーと一緒に毎週の火曜日を過ごしていく上で、「人生の意味」について考えていきます。難病によって残り数ヶ月となった人生を不幸とは言わず、むしろ死ぬまでに残された時間があって自分は幸せだと言うモリー先生の考え方に、私は深く心を動かされ、また自分の生き方について考えるきっかけになりました。と言っても、全く重い話ではなくとても読みやすい本なので、モリー先生と一緒に自身の人生を見つめてみませんか？

藤 H. A.

科学は未来をひらく

村上陽一郎 他 筑摩書房 002/C3

橋本先生
関連本

私は書いている著者の方が同じだったのでこの本を関連本に選びました。現代社会で必要不可欠な存在となっている科学について、最近では危険性が報じられることも多くなり、科学は危険だという曖昧なイメージを持っている人もいることだと思います。この本は、そんな科学の真相を教えてくれ、私たちの考えを大きく変えてくれる本だと思います。又、この本から私たちが科学に参加することの重要性も知ることができると思います。

5D A. O.



愛してるって、どう言うの？

生きる意味を探す旅の途中で

高遠 菜穂子 文芸社 292.5/T

「好きなことをする。」30才の時にそう宣言した主人公は、バックパッカーとなり、インド・タイ・ベトナムへと旅立ちます。マザーテレサの家や、大地震の起きた現場やエイズホスピスで奉仕活動を行う中で人々とふれ合いながら、自分自身の生き方について主人公は考えました。「自分はどう生きていきたいのだろう」「愛とは何なのだろう」と深く考えさせられ、切なく残酷なエイズホスピスの場面からは、人と接することや、関わることの大切さが伝わってくる、自分自身と向き合わせてくれる作品です。

葵 K. S.